

<概要版>

栃木市上下水道事業調査委員会(第2回)会議録

開催日時	令和6年11月25日(月) 10:00~11:30
開催場所	上下水道局庁舎 管理棟
出席委員	藤井亮二委員、湯川晴美委員、岡田真由美委員、和久井賢司委員 門沢イミ子委員、荒山菜穂子委員、進上一巳委員、田島富美子委員、山ノ井一男委員、深津智子委員、池澤佐知子委員、大浦兼政委員、市村隆委員 以上13名
市	上下水道局長 上下水道総務課：課長、課長補佐兼経営係長、課長補佐兼経理係長、料金係長、経営係職員 水道建設課：課長、副主幹兼施設係長、課長補佐兼建設管理係長、副主幹兼給水係長、施設係職員、建設管理係職員 下水道建設課：課長、課長補佐兼管理係長、副主幹兼建設係長、課長補佐兼保全係長
局長あいさつ	小野寺局長よりあいさつ
委員長あいさつ	藤井委員長よりあいさつ
議事概要	<p>(1) 栃木市水道ビジョンの改訂案について（経営係職員より説明）</p> <p>【委員質疑】</p> <p>今回、電力高騰、物価高を含めてシミュレーションを行ったということだが、金額的な見通しというのは、物価高を反映した前と後ではかなり変わっているのか。</p> <p>(回答)</p> <p>現行の水道ビジョンが平成31年3月に作成されてから、栃木市では水害やコロナがあり、社会情勢がかなり大きく変化した。今年4月に改正した水道料金についても反映されていないので、投資財政計画部分にかなり大きな変更を余儀なくされている。</p> <p>【委員質疑】</p> <p>49ページに物価上昇の反映とあるが、ここ30年間デフレが続いてほとんど物価が上がらない状態。おそらく将来的には物価が上がると思われるが、物価が上がってくると今後このシミュレーションはまた変わってくるのか。あるいは水道料金に影響を及ぼすものなのか教えていただきたい。</p> <p>(回答)</p> <p>今回かなり急激な物価上昇があり、デフレーターにより投資財政計画の物価高を見込んだ。これが見込みすぎか足りないかは今後の経済状況を見ていかない</p>

といけないが、基本的に投資財政計画は3年から5年ごとに見直すことになっているので現実と対比しなくても更新はしていく。令和9年度までの料金算定については、今回見込んだ物価上昇率程度ならそのまま大丈夫。令和10年度以降の料金については、改めて算定期間を設けご審議いただいてその結果を反映させる計画になる。

(2) 栃木市下水道事業経営戦略の改定案について（課長補佐兼経営係長より説明）

【委員質疑】

下水道事業はこれからどんどん増えていく計画があり、工事が終わる頃には住んでいる人が減っていくという現状を心配している。田舎になればなるほど面積が大きい受益者負担が難しいのかなと思う。居住誘導地域に設定された調整区域への下水の延伸について考えを聞きたい。

(回答)

調整区域について、基本的には延伸しない。ただし、市街化区域に沿った地域からの希望があれば整備も必要かと考える。

【委員質疑】

確かに下水道が整備されると土地の価格が上がるとか、利便性があがるという話を聞くが、基本的に将来使用者が減りどれだけ負担になるかが心配なので、栃木市生活排水処理構想の資料も見たい。

(回答)

用意させていただく。

【委員質疑】

将来その地域の人口がどれだけ減るのか人口密度はどうなのか、最終的に本当に必要なのかというものを提示しながらみんなで考えていくべき。議員としてこれから研究会を開いていきたいと思い報告させていただいた。

【議 長】

下水道自体がまず生活用水の水質改善、環境保全が目標にある。そういったものと経営的なもの、情報と相反する部分もあるが、うまく見ながら進めていけたらいいと思う。その際にご意見を伺う場になると思うのでご協力をお願いしたい。

【委員質疑】

12ページの藤岡地域の農業集落排水施設について、真空方式と呼ばれる特殊な手法で処理をという記載があるが、どういったものか。

(回答)

藤岡地域は結構凹凸がある地域なので、下水の汚水を集めることがポンプでも難しい。管の中を真空にすると高低差関係なく吸い込んでいくので、一つの場所に汚水をためて、それを集めて処理するもの。

【委員質疑】

ここに記載はないが、先月建設常任委員会の先進地事例視察で愛知県豊橋市に行った。水道のスマートメーターと広域化というテーマで話を聞いてきたが、その中で企業会計が非常に難しく、勉強会を行っているという説明があった。栃木市ではどのように対応されているのか。

(回答)

確かに公営企業会計は複雑で、当然一般会計市長部局の単式簿記とも違うし民間の企業会計とも違い、かなり特殊な経理方法。栃木市では私が専門で職員に教えていたので、詳しい職員が何名かいる。昨年度までは県内の各市からの問いに職員が教えたりもしていたが、ここ2年くらいで人事異動のためいなくなった。市長部局には何名かいるのでローテーションで戻してもらうなど人事に要望していきたい。現在は、経理部門の職員に職場内研修として私がまた教えている状況。

【委員質疑】

異動と定年は避けられない話だが、専門的な知識がいる場合は異動で混乱をきたさないように。栃木市はそこに長けているということで非常に安心した。今後の問題として、局長も含めて会計に長けた人間を留めておくような要望をしていたらと思う。

【委員質疑】

視察の話の中で広域事務連携というものがあり、栃木市だけでやってきたものをほかの地域と協力して事務連携していくというものが始まっている。実現できるかどうかは今後の検討と研究と努力次第ということになると思うが、栃木市の方向性はどうか。

(回答)

国から県レベルで広域連携の計画を作りなさいということで、全ての都道府県で作成したところだが、あくまで事業体としては市町村が動かないといけない。将来的には人口減少が確実な話の中、栃木市だけで今まで通りできるかはなかなか難しい。施設の共同利用や発注など一緒に頼んだ方が安くなるということもあるので、少しでも費用を抑えるため、県の方針とは別に近隣市町に呼びかけ勉強会を行い、どういうことができるかを模索している状況。

【委員質疑】

10ページの栃木市人口の減少というところで、令和10年度までは増えてそこから減少ということだが、少子高齢化で栃木市の人口もだんだん減ってきていることと相反しないかという疑問。それから水道ビジョンの5ページの給水人口は、令和5年度までしか書いていない。これも6年から10年まではどうなるのか。栃木市は空き家が増えていると聞いていて、お金の減収もあると思うが、水道ビジョンにどう取り入れるのか。

(回答)

下水道については、まだ未整備の地区もあり拡張しているため、拡張期間中は使

う人が増えていく予想。ただし、人口自体は減っているなので、拡張が終わり次第徐々に減っていく計画になる。水道については、基本的に整備は終わっているで、少しずつ給水人口が減っていく。21ページの給水人口を見ると、令和54年には半分以下になってしまう見込みになっている。今後の課題として、水道ビジョンや下水道事業経営戦略については、適切に現状に合った計画に見直していくと同時に料金の改善や広域連携の話も進めていかないと考える。

【委員質疑】

空き家は本当に増えているのか。水道とは関係ないかもしれないが、栃木市として対策をどう考えるか。

(回答)

印象として、職員に聞くと結構空き家は増えているという話は聞く。ただし、給水人口、有収水量率も下がってはいるが、水道的なところから見ると給水戸数は若干増えている。核家族化が進んで、子どもが家から出て2軒になるので、空き家も増えているが新築の家も増えているという感じではないかと。

【委員質疑】

料金を約10%上げたことに対して、市民の方からご意見やご要望等はあったか。

(回答)

料金値上げの際は、できる限りの方法で事前にお知らせしたところだが、一番多かったのは、いくらがいくらになったのかというところで、値上げをやめてという声はかなり少なく、かつ説明をすると皆さん納得していただけた。